

## 今後の健康づくりの施策の検討（案）について

## 1. これまでの協議会や作業部会等での御意見

- 健康日本21（第三次）において、「誰一人取り残すことのない健康づくり」「自然に健康になれる環境づくり」という視点が示された。健康に関心が無い層へのアプローチが重要ではないか。
- 健康づくりは、社会全体で取り組んでいけるとよい。県民にも広く紹介できるような機会があるとよい。
- 一次予防の普及啓発と環境づくりは両輪である。
- 企業や大学等、多様な主体と連携していくことが重要ではないか。

## 2. 健康ちば21（第2次）最終評価や研修会実施結果からみえてきた現状と課題

- 個人の生活習慣、特に「栄養・食生活」「身体活動・運動」分野の指標改善が不十分であった。健康づくりに関する活動に取り組み自発的に情報発信を行う企業・団体が増加していることから、これまでの取組に加えて、これらの企業・団体や大学等も含めた連携強化により、さらなる健康づくりを推進していく必要がある。
- 令和5年度健康増進事業等担当者研修会で、講演「自然に健康になれる環境づくりと自治体に求められる役割について」に対するアンケート結果で、「0次予防という概念や視点が印象的」「好事例を聞きたい」「取組としては、発想はあっても地域レベルではできることに限りがあるので、県単位でやることに地域ものれるようにしてほしい」などの意見があった。

## 3. 今後の健康づくりの方向性

- 「自然に健康になれる環境づくり」の推進
- 全ての世代に対する健康意識の醸成
  - (1) 既存の一次予防事業（普及啓発事業）のブラッシュアップ
    - ・効果的な各種情報発信媒体の活用
    - ・健康づくりに取り組む企業・団体・大学等や部局横断的な連携の推進
  - (2) 市町村等が取り組みやすい側面支援
    - ・市町村等への調査による実態把握
    - ・健康づくりに関する様々な対象向けの研修会やイベント等を活用した普及啓発（県民向け、職域向け、自治体向け等）
    - ・先進的な事例の紹介